

2025 年度 東京蜘蛛談話会例会

日 時：2025 年 12 月 7 日(日) 10 時より(開場 9 時 30 分)

場 所：東京環境工科専門学校 〒120-0022 東京都墨田区江東橋 3-3-7

JR 総武線 東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅南口から徒歩 3 分

連 絡：当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には
奥石紗葉子 (080-6626-3069) に連絡ください。

※ パソコン、プロジェクター、用意いたします。講演をご希望の方は、演題と
使用希望機材(スライド、OHP、コンピュータ)を事務局の奥石までお知らせ
ください。

※ 事務局(奥石紗葉子)連絡先

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺 1-2-2 新百合 21 ビル

アジア航測株式会社 環境部 奥石紗葉子

メールアドレス：tokyo.spider.study.group.1966@gmail.com

●錦糸町駅南口から徒歩 3 分です。



東京蜘蛛談話会 2025 年度採集観察会

期 日：第 2 回 2025 年 11 月 9 日（日）

場 所：東京農業大学厚木キャンパス

集 合：9:30 小田急線本厚木駅南口改札

（南口 14 番乗り場より神奈川中央交通バスで移動します）

世話人：初芝伸吾

連絡先：090-6156-8378（初芝携帯）

東京蜘蛛談話会 2025 年度合宿

2025 年度の合宿は、群馬県長野原町・東吾妻町で行う予定でしたが、参加希望者が少数であったため中止となりました。

事務局交代のお知らせと、メールアドレス登録のお願い

初芝さんから引き継ぎまして、今年度から事務局となりました興石です。どうぞよろしくお願ひします。新しい事務局の住所等は以下の通りです。

事務局：興石紗葉子

住 所：〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺 1-2-2 新百合 21 ビル

アジア航測株式会社 環境部

メールアドレス：tokyo.spider.study.group.1966@gmail.com

メールアドレスをお持ちの方は、登録をお願いします。主に例会の講演依頼やプログラムの事前配布をメールで行いたいと思います。

上記アドレスに次の内容をお送りください。

①名前（フリガナ）

②メールアドレス

配信不能なアドレスが多くなっていることから前任者の初芝さんからアドレスの引き継ぎはしませんので、メールでの連絡をご希望の方は皆さんあらためて事務局までご連絡ください。

なお、通信や会誌のメール配布は行いません。これまで通り紙媒体で届きます。

※事務局からのメールが迷惑メールに入ってしまう場合があります。特に hotmail をご利用の方はご注意ください。

※終日圏外にいて返信が遅い場合があります。

御殿谷川（八王子城址）の溪流から ④カラカラグモ

新海 明

ジョロウグモの網に切られずに残されている足場糸とこしき糸との関係に興味を持った私は、1980年代前半にさまざまな円網種が取り付けられている足場糸とこしき糸がどのように作成されるかを調べていた。

その頃、八王子城址への登山道を右手に見ながら、御殿谷川の溪流沿いに延びる林道が、私のお気に入りの調査地だった。特に、この林道の「どんつき」から裏高尾の名もない小さな峰々へと登る山道はハイカーも少なく、そのあたりの溪流や山林を独り占めにできた。日がな一日、実際には夜中まで思う存分にクモの観察ができる場所だった。

ある晩のことだった。ヨリメグモの網のつくりや行動を見ていたら、そのすぐ脇に見慣れない円網を張っているクモが目にとまった。溪流の小石と木の根の間に小さな垂直円網をせっせと張っている最中だった。すでに、足場糸をたどりながら横糸張りをしていたのだが、よく観察するとその足場糸が1周しかなかったのだ。横糸を張り終えたあとで、それ以外の足場糸を取り外した様子でもなかった。何よりも「変わっている」と感じたのは足場糸が同心円状だったことだ。

しばらく横糸を張り続けていたが、やがてその足場糸に達すると他の円網種と同じようにこれを切断して横糸の造網を終えた。このクモの正体は…と目を凝らしたが小さくてよくわからない。すでに横糸作成を終えていたクモを採集して種名を確認しようと決めた。ところが横糸作成が終わってこしき部に戻ったクモは驚くべき行動をとったのだった。それは、すでに出来ていた縦糸を数本ずつ寄せ集めて、こしき部にそれらをまとめていったのだ。この収束させた縦糸は大まかに3ブロックほどになり、クモはその糸をこしき部にまとめたあとで網の中心から外の小石に向かって伸びていた1本の糸を手繰るように円網全体を引っ張っていた。この特徴はカラカラグモではないか。

せっかく張り終えた「から傘網」を懸命に引いていたクモには申し訳ないが、管ビンにとってルーペで見てみた。いまだ幼体ではあったが、その腹部には見間違ふことのないあの「剣菱紋」があった。カラカラグモに間違いなかった。

私はカラカラグモの網をすでに知っていた。しかし、その作成過程など見たことは一度もなかった。カラカラグモの完成した網は見た目も造りも極めて変わっている。しかし、造網過程を詳しく調べてみると、その網の完成の直前は「フツの円網」と同じだった。「から傘網」は造網の最後にこしき部の縦糸をいくつかにまとめるというプラスアルファの変形を加えただけだった（新海・新海 1985 : AC33）。

カラカラグモの網の研究は、私のその後の網構造の調査をつらぬく一本の柱になった。今この世で見られるさまざまなクモの網は、どのように生じたのだろうか。この答えの一端を解く一筋の光をカラカラグモの網から、私は感じとったのだった。

最近になって、鈴木佑弥さんらによって日本産のカラカラグモ類の分類や網構造などが解明されつつある（鈴木他 2020）。今後もこの分野での研究のさらなる進展が期待される。



カラカラグモの網

（追記）御殿谷川（城山川）の今

通信 172 号で、八王子城址の御殿谷川（今は城山川が通称名のような）の溪流沿いの林道が跡形もなく「消え去ってしまったようだ」と記した。

2025 年の GW に意を決して八王子城址を再訪して実地調査をした。林道の入り口の車止めをすり抜けて進み入った。その先にある林道のゲートを過ぎても何の異変もなかった。そのままクスミサラグモの数をチェックしながら林道のどんつきまで歩み、さらにその奥にあった私のお気に入りの柚道に入ったが景観は全く変わっていなかった。

1980 年代に私がクモ調査に足しげく通い詰めた御殿谷川の溪流と林道は、その姿を少しも変えず、ただ新緑に輝く木々の成長とハイカーが増えたことだけが遠い昔との違いだった。

自分自身で踏査もせずに「林道が消え去ってしまったようだ」と書いてしまったことを反省して、ここに訂正致します。

ゆるクモイラスト

天木 詩織



作者の自宅の窓枠に現れたメスのアダンソンハエトリ。窓枠に付いているプラスネジの穴をジ〜ッと見つめているかと思えば、しきりにツンツン突っつき始めました。



ヨダンハエトリ♂ 黒触肢



ヨダンハエトリ♂ 白触肢

各種原稿投稿先

通信原稿投稿先：長本李花

メールアドレス：spider.ngmt@gmail.com

通信の原稿締め切りは、4月末、8月末、12月末です。

KISHIDAIA 原稿投稿先：鈴木佑弥

〒770-8070 徳島市八万町向寺山（番地なし）徳島県立博物館

メールアドレス：sasaganiya1206@gmail.com

ファイルサイズが大きくてメール添付できない時には、ドロップボックスやグーグルドライブの転送機能・共有機能、宅ふぁいる便やデータ便などの転送サービスをご利用ください。

キシダイアの原稿締め切りは、6月末、12月末を目安とし、予算枠内のページ数まで先着順といたします。

各種申請先

入退会申請先：事務局 興石紗葉子

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺 1-2-2 新百合 21 ビル

アジア航測株式会社 環境部

メールアドレス：tokyo.spider.study.group.1966@gmail.com

会費・住所変更：会計担当 須黒達巳

〒150-0013 渋谷区恵比寿 2-35-1 慶應義塾幼稚舎

TEL：080-5683-2765

メールアドレス：t.s.schlegelii@gmail.com

談話会費について

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 4000 円、学生 1000 円です。

会費は郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。